

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

## 全 員 協 議 会 記 録

開催日：平成28年12月26日（月）

開催時間：13時02分～15時15分

開催場所：全 員 協 議 会 室

### 〔出席議員〕

西田議長、平石副議長

~~足立議員~~、岡野議員、柳楽議員、串崎議員、小川議員、森谷議員、野藤議員

上野議員、飛野議員、笹田議員、布施議員、岡本議員、芦谷議員、佐々木議員

道下議員、~~田畑議員~~、澁谷議員、西村議員、~~江角議員~~、牛尾博美議員、原田議員

牛尾昭議員

### 〔執行部出席〕

市 長、副市長、金城自治区長、旭自治区長、弥栄自治区長、三隅自治区長

教育長、~~給務部長~~、地域政策部長、財務部長、~~健康福祉部長~~、市民生活部長

~~産業経済部長~~、産業経済部参事、都市建設部長、金城支所長、旭支所長、弥栄支所長

三隅支所長、~~教育部長~~、~~消防長~~、上下水道部長、（広域行政組合事務局長）

〔事務局出席〕 局長、次長、議事係長 （報道）中国新聞

### 議 題

#### 1 執行部報告事項

- (1) 市街地下水道整備計画方針（案）について
- (2) 中期財政計画及び見通しについて
- (3) その他

#### 2 その他

- ・購入給水車の展示案内（上下水道部）
- ・糸魚川市大火災への支援について

【詳細は会議録のとおり】

西田議長

中期財政計画、それに伴う下水道整備計画方針について、もう一度詳しい説明を求めて、意見交換、議論をしたい。

始めに市長から報告がある。

久保田市長

最初に5分ほど時間をもらい、今回の中期財政計画の基本的な考え方について私から述べさせていただきます、後ほど財務部長からご説明に入らせていただきます。

手元の資料の1ページ目、「策定のポイント」と書いてある部分をご覧ください。

今回の中期財政計画は、昨年までご提案させていただいたものと大きく違っている点を最初に述べさせていただきます。まず特徴は4点ある。1つは第二次総合振興計画と整合性を取るために、策定機関を平成28年度から10年間とした。第二次総合振興計画がちょうど10年間の計画のため、この総合振興計画が果たして財政面からどうなのかということを考える観点から、期間を同じく10年間とした。

2点目が文章と若干違うが、それに伴って施策の見直しを行っている。総合振興計画では新たな施策を含めて様々な施策を織り込んでいるが、これが財政面で可能なのかということで、18ページの主要事業をご覧ください。主要事業はこれまで様々な事業の中から大きな事業をここにリストアップしている。中でも特に5億円以上あるようなものを左から見っていくと、4番目に元谷団地が5億6000万、沖合底曳網・まき網漁業改革推進事業が7億2000万円、高度衛生管理型が実は一番大きく54億3000万円。更に瀬戸ヶ島埋立地活用6億8000万円。白砂1号線改良事業が6億1700万円。中筋線道路改良事業が5億1000万円。浜田駅周辺整備事業が7億3000万円。浜田歴史神楽資料館13億6000万円。総合振興計画の中にも謳っているこういった事業について、金額を再度見直し、追加が必要なものは追加、あるいは減額が可能なものは減額を行った。

また再び1ページに戻っていただき、3つ目に申し上げたいのは行革効果を織り込んだ点。②に書いてある。昨年までのところ、(1)にかいてあるが昨年お示した中財は、行革効果については織り込んでいない。しかしながら行革効果も当然織り込むべきだという観点からこのたび織り込んだ。

4点目が歳入の見直しを行った。これで言うと④の所になる。例えば地方税の見直しはこれで良いか、ふるさと寄附はどうか、更には三隅火力発電所。本年2月に決定したが果たして固定資産税等の収入にどれだけ影響があるか。こういった歳入面の見直しを行った。

これらの点を見直して本年4月から、財務部あるいは関係部と一緒に何度となく協議を重ね、約8ヶ月かかって出来上がったものが今回お示した中期財政計画である。そういう意味では昨年までと大きく違っている点をまず最初に申し上げる。

策定にあたっては歳入・歳出のバランスを極力取ろうということで行った。17ページをご覧ください。昨年の資料では累積赤字が4年間で42億円ということで発表したら、新聞にも大きく出て数字が独り歩きし

た。改めて歳入・歳出の見直しを行って、あるいは行財政改革等も織り込んで、出来るだけ各年度の収支バランスがプラマイゼロになるように、バランスが取れるよう心がけて作ってくれた。その結果、17ページの上にあるが、10年間の単年度収支の累積でいくと、プラス1億円という数字になっている。

去年は42億円赤字と書いたのに比べて、なぜこんなに改善したのかと言われるかもしれないが、冒頭に申し上げたように歳入・歳出について再度見直した結果、こういう見込みになった。

その下に調整基金の残高があるが、平成27年度末（本年3月末）のスタートが38億円だった。今後10年間を見据えると、財政調整基金を年によっては取り崩さなければいけない年も出てくるが、基本的には基金を取り崩さずにこの10年間いけるような財政計画を立てた。

ただ、12、13ページをご覧いただきたい。決して簡単なものではないことも最後に申し上げておきたい。12ページにある推計Aとは、言ってみれば少しの努力でできるだろうというもの。ただそれだけでは足りないのもう一段の努力が必要だというのが推計Bである。具体的には右上の事務事業の見直しということで、34年からではあるが年2億円くらい削減しなければならない。公債費の削減も同じく34年から年2億円くらい削減せねばならない。これについては34年とかなり先の話ではあるが、一段とこういった努力も必要だと認識して出てきた数字である。

その下のふるさと寄附だが、このページをご覧になると平成31年から年間4億円程度の寄附額と見ている。昨日現在で既に12億6000万円入っているが、財政的には極めて慎重に。この寄附制度が今後どうなるかわからないということもあり、31年度からは全部で入ってくるのが4億円ということで極めて固めに見ている。我々がふるさと寄附が増えるよう努力するわけだが、上ぶれば余力が出てくる。

そういうことで、この中期財政計画を作らせていただいたことを冒頭に申し上げ、詳細は財務部長からご説明させていただく。

## 1. 執行部報告事項

### (1) 市街地下水道整備計画方針（案）について

### (2) 中期財政計画及び見直しについて

西田議長	続いて財務部長。
埴財務部長	（以下、(2)資料をもとに説明）
河野上下水道部長	（以下、(1)資料をもとに説明）
埴財務部長	（以下、(2)資料をもとに説明）
西田議長	説明が終わった。議員から質問は。岡本議員。
岡本議員	下水道の絡みで伺いたい。34年度以降に延伸して着工することだが、それ以前は下水道について何もしないのか。
	それから、国県と調整を図るという説明だったが、具体的にどのような調整を行うのか。
河野上下水道部長	見直し後で事業期間が先延びになり、それまでにどういったことをするのかというご質問だが、少なくとも今説明した内容についてはこれから県あるいは国との調整が生じる。その間についてはこれも財源の話が伴うため今はっきりしたことは言えないが、1つの手法としては公共下水

道以外の方法で汚水処理をすることも考えていかないといけないと思う。一つは合併浄化槽の推進もあるかと思う。

国との関係で言うと、実は6月に一度国と協議しており、その時には当初案と言うか、今回の変更前の協議をしている。その時点では正式に中期財政計画が示された後でないと財源のことは申し上げられないということで、今日の説明を踏まえて今後国と更に詰めていくつもりなので、そういう意味ではこれから国に対して説明責任を果たしていくことになる。

岡本議員

私が聞いたかったのは、34年度以前については合併浄化槽云々という説明だったが、例えば計画をするとか、国府地区の加入数が伸びない等も含めて検討していったり、ある程度の方向性や計画を作っていくのかを聞いたかったのだが。予算がつかないとできないものか、それ以前の数年を使ってでも34年度になってすぐに着手できることを思っておられるのかどうか聞いたかった。

それと国県との調整の話も出たが、34年度以降となると下水道関係については浜田は県内でも非常に下位にいるが、他市はどうするのか。最終的に34年度以降となると、県内の公共下水道の取りかかりは浜田市が最終になるのだろうと思っている。それについて国や県が何か言うのではないか。そういうことも含めて聞きたい。

河野上下水道部長

この事業そのものは処理場部分と管路と、大きく2つの事業がある。処理場については現在お示ししているように松原・浜田川河口付近に県有地があるのでそこを確保することで協議検討している。県とは地元の理解が得られれば相談に乗るという話になっているので現在話を進めているが、そこについては34年度より前に土地取得しなければ事業にかかれないので、そういった作業が前段階に入っている。

あとは34年度以降に事業認可の手続きがあるので、それまでは土地確保の問題とそれに伴う地元の調整を進めていくことになる。県や国との調整は、重なるかもしれないが、今現在で国が示している考え方は10年概成。つまり全国的にはほぼ下水道整備は進んでいるので、今後は管路や施設の更新に予算を割く。しかしまだ整備されていない所については今後10年間くらいで集中的にやるように、そこには補助金もつけようという考え方を持っている。従って概ね10年の間にできるかぎり進める。34年から10年となるとなかなか難しいかもしれない。そこは今後の協議になる。いずれにせよ国県は見捨てることはしないと思う。しっかり協議して、一番効果の上がる駅前周辺については公共下水道を設置したい。

西田議長

続いて、森谷議員。

森谷議員

財政の大きな問題として、とても良い制度だがお金がないので仕方なく見直し・廃止しなければいけないのだという、自治区制度というのがあった。現実的には何も変わらないのに、鉛筆の舐め方を変えて好転したように見えるのだが、見えた以上は良い制度を維持せねばいけないと思うのだが。

砂川地域政策部長

自治区制度を維持すべきということか。

森谷議員

人の話をきちんと聞いておけ。大変良い制度だけども、財政が悪いので仕方なく廃止または縮減しなければならない。断腸の思いであるような顔つきで市長は決断された。ところが今見ているとそれほどのことは

なく、最終的には1億円黒字が出ると。私には鉛筆の舐め方を変えたくらいにしか思えない。黒字になると言う以上は、折角の良い制度を元通りにしなければ辻褄が合わないのではないかと思うが、納得できるような説明をして欲しい。復活するということになるのかもしれないが。

砂川地域政策部長 自治区制度は確かに、廃止かどうかという議論をして、最終的には一部見直しで4年間延長という流れにより、現在継続中である。この4年後に前のように戻すかやめるか、どうなるかは分からないが、いずれにせよ制度を残すということではなく地域を寂れさせないようにする1つの手法としてやっているの、それを達成するために必要な対応をすれば良いのではと思っている。

森谷議員 1番最初の理由はそんな理由ではなかった。お金がないから。大変良い制度で維持しなければいけないのは重々分かっているけども、ということで。地方に対してどういうことをするのが良い制度かということで、ゼロベースで考えるという話ではなかった。今の説明はそういう内容だった。間違っている。

砂川地域政策部長 財政的なことも当然言った。自治区長にはその分の報酬、これは当然地域からも色んな声があったので報酬は削減させていただいたりして、その対応はしている。

森谷議員 そういうことではなく、スタートは、大変良い制度だと。とても良い制度で維持したいのだからお金がないから、財政が悪いからということで。自治区長の給料を減らしたとか、今そういう話はしていない。他に良い方法を考えていくという話ではない。スタートの、第1ボタンの話をしているのだ。その理由がなくなった以上は制度を復活させるのが当然ではないかと、そう質問しているのだ。

久保田市長 冒頭に申し上げたが、今回は中期財政計画について改めて色んな面において見直しを行っている。昨年、一昨年と前提となった中期財政計画、それまでに作った中期財政計画をベースにしている。議員からご質問があったが、今後どうするかについては当然、新しい財政計画のもとで、また自治区制度はどうあるべきか、これはまだまだ時間は先なのでその時に議論させていただきたい。

森谷議員 全く納得はできないが。ただ自治区制度をやめるために嘘のマイナスの中期財政計画を作り、自治区制度をやめる方向にカーブが切られていったら、今度は黒の財政計画を出す。矛盾するのではないかと例えば、もうあちらはあちらで進んでいるからと、そう説明されているようにしか思えないのだが。1回答えていただいて終わりにする。

久保田市長 自治区制度をどうするために中期財政計画を作ったわけではない。あの時点での中期財政計画、それぞれ精一杯色んな情報をもとに作ったものである。このたび約8ヶ月くらいかけて財政計画の見直しをしており、それを踏まえた上で、こと自治区制度についてはどうあるべきかは、改めて議論させていただきたい。

森谷議員 これは、前回発表した所と現実的には何も変わってない。中電の発電所もできることは分かっており、何1つ変わっていない。ふるさと寄附も貫き続けることにした。それも4億が入るんだと勝手に決めただけではないか。前だってそのように決めて良いはず。何も状況は変わっていないではないか。埴部長、頷いているがあんたが決めただろう。

水道も適当に延ばしたりして、こんなものに何ヶ月もかける必要があるのか。俺なら2、3週間でこれと同じものが完璧にできる。財務部は何故こんなに時間をかけて、状況が変わらないのに鉛筆を舐めたぐらいのものを作って、恥ずかしいと思わないのか。何人分も何時間分もの給料に何千万も使ってこれだけのことしかできないのか。これは以前できたことではないか。

西田議長  
串崎議員

他に質問は。串崎議員。

下水道関係の内部協議について。30年代前半に大型事業が集中で、34年以降という形になっている。大型事業は18、19ページで説明があったように5億円以上のものを指すとしているが、大型事業とは改めて何かということをお教えいただきたい。

埴財務部長

投資的経費の事業のことを指しておっしゃっているということでしょうか。

串崎議員  
埴財務部長

この下水道関係の。

繰出金の所で説明したが、結果的にこれは1つに、大型事業と指しているのが投資的経費になる部分だと理解している。それは18、19ページに表があるように、現在から33年まで事業が目白押しにある。そういった部門を指して大きな事業が展開している。併せてランニングコストも発生するので、そういった部分でここに一定の財源を持っていかざるを得ないと考えている。

串崎議員

何かちょっと分からないが、単純に下水道事業の話を書けば、前からの予定があったという話だった。事業を見ると瀬戸ヶ島にしても6億円くらい。神楽資料館も13億円。これは出ているがまだ決まったわけでもないし今からの話だと思っている。何故最初に決まっていたものが後回しにされるのか疑問である。考え方を伺いたい。

埴財務部長

財源があればいくらでもやりたい。市民生活に直結する部分で今回ある程度やりたいというのは十二分に考えている。他にも大きな事業でやらなければならないのが、高度衛生型荷捌所。昨年の見込みは37億円くらいだったと思うが、もう54億円に膨れ上がっている。そのように事業費が膨らんだものもあり、結果的にその収支バランスを取りながら平準化を図って投資的経費を見ると、これでだいたい33年度まで事業が目白押しになってしまうというのもある。

もちろんこれだけの問題ではなく他にも事業はある。瀬戸ヶ島、城山開発、駅周辺事業等、これ以上の事業に着手するのは非常に難しいと判断している。

近重副市長

補足的に下水道事業についてのべさせていただきたい。29年度から計画していたので、できるだけ早く実施したい。高度衛生管理型にしても31、32年度くらいまでは事業が続くため、それ以降できるだけ早く取りかかりたかったが、実は34、35年にエコクリーンセンターの大改修が控えており、これに何十億という経費がかかるため、それに下水道事業がぶつかると非常に厳しい状況があるので、その辺も含めて34年以降にさせていただいている。ただ、何もしないではなく先ほど部長が答弁したように、終末処理場については地権者の方とも相談せねばいけない部分もあるし、国県と協議しなければいけない部分もある。事務的な部分の作業は少しずつでも進めていきながら、事業開始となればすぐ着手できる

形で取り組みたい。

また国府の公共下水道については、先ほど議員さんから質問があったが、その辺もきちんと進めねばならない部分もあるので、含めてトータルで事業開始については計画を少し延ばさせてもらった。ご理解いただきたい。

串崎議員  
埴財務部長

もし34年度以降、他に大きな事業があれば今教えていただきたい。

大きな事業と言うか、1つはまた扶助費の伸びをご覧いただければ分かると思う。超高齢化して人口減少する中で、子育て、保育料の問題、保育所の問題等々、扶助費全体が伸びるということがある。どこを指しているというより全体。地域包括ケアシステムを導入してそういった対処をしていかねばならない。介護予防事業も当初は介護保険の中の事業として財源があるが膨らんでいく可能性もある。そういうのも扶助費に対しては非常に慎重に、色々と心配している。そういった面があるので横並びにずっといくことはない。どこか増えるものがある、その1つが扶助費であったり。もう1つは再配置計画を行うので、新たにそういった計画が出てくる可能性もある。そういった目線・視点で判断している。

西田議長  
笹田議員

笹田議員。

下水道関係だが、最初聞いた時にびっくりした。市長は市民の顔が見えているのか。というのは、松原に整備されるということで水道部の方からどうしたら良いだろうかという相談があった。牛尾博美議員を含め地元議員は地元で理解してもらおうと一生懸命動いた。港もあって漁師もなかなか首を縦に振らないような町なので、早めに相談をされた方が良いということで一緒になってやってきた。その中で何の相談もなく、急に予算が足りないから5年後にずらすと言われた。市民の顔を本当に見られているのか。渋々色んなことを言われたが、松原町の方は、浜田市の駅前のことなのだから協力しようと言ってくれた。しかし僕らへの相談の有無は別として、急に延期と言われて我々は松原町民に見せる顔がない。僕らは地元代表として市議会議員になり、浜田市の市政が浜田市民にとって良くなるように話をしている。最初に聞いた時は悔しかった。正副議長にも話がなかったそうだ。わずかでも事前に話があれば、博美さんも僕も住民に腹を割って理由とともに計画がずれ込むことを前もって説明ができたが、こんなことを今更言えない。29年から着手すると住民には説明しているのに、お金がないから延期すると。お金がないのは最初から分かっていたはずで、ずれ込むという話もあったのかかもしれない。そうすると市民の不信感は増えていくだろう。どのようにお思いか。

久保田市長

今の指摘する点については私が代表してお詫び申し上げたい。当初は29年度から、まずは処理場を取得して駅前周辺からスタートしたいという計画を持っていた。ただ、事業開始が29年度のため実際の工事はもう少し後になっただろうが。

しかし先ほど来から説明があるように、全体の中期財政計画を立てる中で、それぞれ年度のバランスをなるべく取ろうという中で、事業を全部洗い直した。この時期にはこれをどうしてもやらざるを得ないというのがいくつかある。何をどうずらせるのか議論した中で、下水道処理については29年度にまずは用地取得をしよう、計画も作って説明しよう

ということで、本格着工は34年という話をした。

ただ、これは十分に皆さんへご説明できてなかったという点については重ねてお詫びを申し上げる。今回の中期財政計画を作るにあたり、前提となる……下水道事業をいつやるかというよりも、中財を作ることに力を入れたため、事前に充分なご説明が出来なかったことについてお詫び申し上げたい。

先ほど下水道部長から説明があったが、実は国が10年間概成と言っている。その中で補助できる期間というのがある。これはまだ決定ではない。遅らせた時にその後補助がつくのかどうか。的から外れたらいけないので、その辺は調整させていただいている。国や県から、もっと早くしないと補助が出ないという話になれば前倒しということもあり得るかと思う。とりあえず今、この12月に中財を皆さんにお示しせねばならぬという点を最優先でやったものだから、かつ年度間のバランスをなるべく取ろうとしてやった。決定版ではないが、下水道については国県と、補助が出るかどうかで調整させていただいている。

説明が遅れたこと、あるいは議員の皆さんにご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

笹田議員

我々も住民に説明しなければならぬ時期がくる。下水道に関しては計画が色々変わってきた中で、はっきり言って要らないのではと言う市民もいる。合併浄化槽で良いのではないかと。そういった中でちゃんと計画を示し、やるやらないは別としても市民に不安を与えない市政が大切だと思う。浜田市はもうやらないのだと、合併浄化槽で良いのがあるのだからやるんだと、その方針で行くと言えば市民は納得するはず。5年後にやると説明しても疑念を抱かれるだろう。色々話を聞くと駅前には地盤が悪く、2メートル掘ると水が出てくると言う人もいる。もう一度しっかりした下水道計画を市長中心で立てられて、住民に説明するべきだ。そうすることでこういったことがなくなると思う。市民の生活にとって下水道は大切な事業だと思う。市長は中財を示すためにこのようになったと言ったが、市民は今住んでいる場所がどうなっていくのかに一番興味を持っている。駅前にはホテルや飲食店もあるし、学校も集中している。再度考え直して、下水道については市民に分かり易く説明するべきだと思うがどうか。

久保田市長

ご指摘があったが、下水道については下水道審議会からも答申があった。やる時にはこういうことをやらないといけないという点がある。来年には再度整理した上で、中財上はこういう計画になるということをお示ししているが、国や県との調整がまだついていない。国県のご意向も踏まえながら再度整理し、改めて住民にお話できるようにしたい。

西田議長

牛尾博美議員。

牛尾博美議員

この話を聞いて信じられなかった。笹田議員が言ったように、松原・殿町だけの問題ではなく旧市内に関わる大きなインフラ計画が一番大事な部分なので何とかせねばと、一緒になって話をした。延期と聞いて久しぶりにびっくりした。この計画そのものは元々会津坂下の下水道分割方式を我々産業建設委員会が視察に行き、短期で非常に経費的にも安く出来ると、全世界の各地が会津坂下のやり方に倣っているからということで話が進んでいって今に至っていると思う。もう1つ、実を言うとこれ



はやったなと思ったんだけど、市長も市民のことを考えてこの計画を29年度から、川の北側からやっていくという話があった時に、平成17年の合併時はいわゆる自治区制度の話し合いがある中で、浜田のいわゆる全体的な計画としての下水道の話も少しあった。私も特別委員会にいた。旧浜田をやるにあたっては恐らく500億円600億円という資金がいるのではないか、あくまでも推計だがこの金額を合併時に言うところの合併が立ち行かなくなるということで、これは浜田旧市内の議員としては、この合併を何とか成功させようということで、下水道の話はご破算というか、口を出すなと言われ、我々はこの10年間何も言わなかった。だから旧市内におられる方については、この10年間これとって、何を言っても全てお金がないからと窓口で断られるような状況がずっと続いていたが、こと下水道に関しては全く計画もなければ話もなかった。それが今、下水道の計画が立ちあがったということで、本当に市民にとってやっとな安心してもらえる工事に着手できるんだと、私も喜んでいて矢先だった。私は松原云々だけではなく、もっと市民生活に密着した、もっと身近な計画そのものが優先されるべきだと思う。優先順位をどのように決められているのかお伺いしたい。

西田議長  
埴財務部長

財務部長。

優先順位は当然、生活に密着した部分や緊急を要するものがある。財政ヒアリングに関しては各部各課で、それぞれ急ぐものや財政の要望が出てくるので、その中であげていって政策的に最終判断するものがある。急ぐもの、事業規模の大きさによっては今は財源がないので1、2年遅らせようとか、そのようにトータル的な視点で見る。最終的にそれをどう判断するかは政策的な判断となるので、財政サイドがそれを最終的に決めるわけではない。ここが重要な所で、これは飽くまでも何を優先するかはその時の、議員の意見や市民の意見、市長の判断等を加味して選択される。

牛尾博美議員

言われることは分かる。日本の国民はやる前から心配する人種だ。侵略されたことがない民族なので、何かやる時には心配の方が先に立つ癖がある。未来があるのに喜ばない、あるいは前進的物事を考えない性格をしている。借金はこれから先もずっと、恒久的にあるものだ。借金があってもやらねばならない事業がこれだと僕は思っている。優先順位は高いと僕は思っている。

それともう1つ、笹田議員が言ったように、私らは70歳になったがどの市内を見てももう人が住めるようなまちでなくなっている。その中でこれから10年先に道路を掘り返して大きな管が通っても、次の段階として接続してくれないと機能しない。それで本当にこの下水道工事を10年後にやって、それを皆が喜んでくれるかどうか。あるいは環境が本当にこれで良くなるかどうか。そういうタイミングは既に20年前からあるはずなのだが、また10年遅れて30年くらい遅れる感じになる。それをどのように思われるか。

河野上下水道部長

ご指摘のとおり人口減少が進む中でこの事業をどう進めていくか、非常に重要な問題だと思っている。この春に下水道審議会の答申をいただいたベースになっている資料にも、平成42年くらいまでのところの人口推計なども参考検討した上でいただいている。

その中で、駅前周辺については人口減少率が市内で一番低いところで、公共下水道事業をするには適しているという判断をいただいている。

そこを基本にしながら、その他の地域については改めて再検討する必要があるかと思っている。

牛尾博美議員

先ほど言ったように、今後も財政的には苦しいと思う。そうした中でやらなければいけない事業がある。下水道事業こそやらなければならないタイミングだと思う。再度見直されても結構だが、浜田市民は充実感、幸せ感をあまり持っていない。そうした中でこの事業に取り掛かると聞いて、非常に光が見えてきた。希望が出てきていたはずだ。そのあたりでもう少し考えていただきたい。再考していただきたい。

久保田市長

下水道については、昨年策定した第2次総合振興計画にも整備すると謳っている。したがって整備する方向感を持っているが、一般質問で国府地区の接続率の問題等も考え、駅前周辺はいいがその次はよく検討すべきとの意見もあった。現時点では駅周辺についてはやる方向で動いており、とりあえず処理場関係の事務を行っている。次のステップについては皆さんの意見も聞きながら検討していきたい。

西田議長

他にあるか。佐々木議員。

佐々木議員

今回から再配置計画の需要額を見込んだということで、新たな投資的経費として10億円前後挙がっている。当初の総合管理計画での施設の必要経費は約19億円だと聞いたが、今回約半分になっている。先般の総務文教委員会の中では、積み上げた結果こうなったとのこと。それはそれでいいが、34年以降の再配置の計画に繰り上がってさらに重荷になりはしないかとの不安がある。またインフラの部分の計画も見込んであり、それが年間15億円との試算である。これについては今回投資的経費として入れていないのか。

埴財務部長

34年以降のインフラは、箱物のみの推計としていると思う。・・・インフラ8億円程度入れている。したがって合わせて入っていると理解していただきたい。

佐々木議員

9ページの上の棒グラフの白い部分に入っていることは確認できた。平成34年度以降が見込みの部分だがどうかということで聞いた。34年度以降他の投資的経費が入ってない中で、これをもって収支不足は解消というのは無理があるのではないか。その辺の感覚はどうなのか。

埴財務部長

33年度までが計画で、34年度以降は見通しで積み上げが十分なされていない。したがって見通しなのでなかなか難しい推計になっていることをご理解いただきたい。

佐々木議員

理解できるが、見通せないなら「収支不足は解消」という表現がいかげなものかということ指摘させてもらった。財政当局としてはどのように思っているのか。

埴財務部長

答えにくいですが、もう一つこの言葉を上げている根拠の一つは、財政調整基金は一定額プールされている。これが財源とできる。そうした意味当面は基金があるので対処できることから、そういう意味も含め「収支不足は解消」という表現としていることを理解していただきたい。

西田議長

続いて、澁谷議員。

澁谷議員

全国に3,200の自治体があったときの財政債権団体は福岡県赤池町一つだった。平成の合併後、夕張市1市。民間の倒産件数を考えた場合、自治

埴財務部長	<p>体が倒産することは極めて少ない。事業をやらなければいいからだ。今回、昨年の計画から一転して黒字の計画が出された。どのようにして作られたのか。</p>
澁谷議員	<p>基本的には7月のサマーレビューで、10年間の積み上げを各部各課にヒアリングを行う。特に計画期間については詳細な積み上げを行う。見直し部分は不確定要素があるので難しいが、総合的に見て出している。</p>
河野上下水道部長	<p>ふるさと寄附は、プラスアルファの部分であり本来ならば市民サービスの向上のために使うのが市民に喜ばれると思う。先ほどの下水道の繰り延べについては、常任委員会の中でも国府の接続率の問題で毎年3億円の持ち出しで本当にできるのかと議論をしてきた。その中で下水道がない町は都市と言えないとの答弁で担当課の強い決意を感じた。それだけの覚悟があるのならという気持ちになっていた。ところが今回2ヶ月も経たないうちに延期だと。愕然とした。1、2年ならわかるが、5年先延ばしは理解できない。また次5年先延ばしにもなりかねない。5年先にきちんと整備されるということはどう信じればいいのか。</p>
澁谷議員	<p>担当部署としては、当然今後推進していきたいと考えている。しかし全体の主要事業の中で調整せざるを得なかった。ただ、今回の見直しに際し県とも協議しており、国の10年概成という考え方の中で何とか説明がつくだろうとも伺っている。やらないということではなく今後もしっかり取り組んでいくのでご理解いただきたい。</p>
近重副市長	<p>この計画をみると、固定費を圧縮していくことがまず前提になる。税収を増やすとなると、人口減少の中でなかなか困難。固定費、人件費が全く変わっていない。固定費を減らして住民福祉に資する意気込みが全く感じられない。人口減少に対応した形になっていないと思うが、どう理解すればいいのか。</p>
澁谷議員	<p>人件費については、先般の議会でも市長から答弁しているように人員の削減もしているし、総人件費についても32年で56億円、33年度で55億円と年度年度縮減できるよう取り組んでいる。34年度以降も事務事業の見直しの中で更なる行革をやっていく。今までの行革の効果の中で一番大きいのは総人件費の抑制だったのでご理解いただきたい。</p>
西田議長 岡野議員	<p>この計画を見て、20年前に逆戻りしたのではないかと軽いめまいを感じたことだけお伝えしておく。</p> <p>他にあるか。岡野議員。</p> <p>下水道事業に関して、今回先延ばしとなったことによって新規に駅前周辺で事業所やアパート建設をしたい場合、下水道がないことでかなりのデメリットがあると思う。まちの活性化のためにも補助金を出すべきだ。安来市は220万円出している。浜田市は個人には補助しているが、事業者にはない。やはり下水道がないところは平等に出すべきだ。5年先延ばしになった代替策として考えるべきだと思うがどうか。</p>
河野上下水道部長	<p>ご指摘には真摯に受け止めていきたい。ただ、これも財源が伴うことなので来年の財政協議ではご指摘の内容も含めしっかり協議させていただきたいと思う。</p>
西田議長 西村議員	<p>続いて。西村議員。</p> <p>過疎債の枠が限られているから、下水道事業を外されたのだと思うが、その判断をされた経過を伺いたい。それからもし仮に国の補助から外れ</p>

河野上下水道部長	<p>たらどうするのか。いつわかるのか。</p> <p>国との協議だが、6月の時点では10年概成の中で財源確保が前提だといわれている。財源というのは市の財源のこと。今回5年先延ばしにしたので5年後必ず確保するという前提で協議をする。過疎債の枠の話だが、下水道事業は過疎債と下水債を半々程度で考えている。仮に過疎債を充てない場合は3億円くらいの差異がでる。そうすると使用料にも影響しかねないので過疎債は充てたいと考えている。全体の判断の中で下水道事業を枠から外して先延ばしした。</p>
西村議員	<p>だから、全体の判断を聞きたい。下水道事業に特化して言われてわかるが、他にも事業があるから枠があるわけで、他の事業についても検討されたと思う。だから上下水道部長では答弁できないはずだ。</p>
近重副市長	<p>先ほど財務部長が答弁したが、サマーレビューの中で各部署から要求が上がってきて、大きいものは市長ヒアリングをし庁議メンバー級の中で協議し最終的に政策判断したものだ。</p>
西村議員	<p>別に二つほど聞く。4ページの⑥の「合併算定替による特別加算措置の縮減による影響を見込む」とあるが、今回10.4億円、前回は13.8億円で3.4億円の減の内訳を伺いたい。それから5ページの「②長浜西住宅家賃収入については、影響額を個別に積算する。」とあるが、どういうことか。</p>
埴財務部長	<p>4ページの⑥の部分は、今内訳の数字を持っていない。また後ほどお示しさせていただきたい。5ページの長浜西住宅家賃収入については、段階的に上がっていくのでそういう表現とした。</p>
西田議長	<p>森谷議員。</p>
森谷議員	<p>12ページ、13ページの推計A、推計B。簡単にできるのが推計Aで力が要るのが推計Bとのことだった。歳入の三隅火力発電所は私が計算に入れよと言っていた。前は計算の仕方が分からないとか言って入れてなかったのに、今回は他所の計算をそのまま持ってきただけだ。わざと乗せなかったんだと勘ぐりたくなる。地方消費税交付金でもおおよそは分かるはず。地方交付税も同じこと。行革の効果でもそうだ。企業立地支援の増加がちょっとわからない。</p>
西田議長	<p>推計Bは①の事務事業の見直しは努力目標みたいなもの。②公債費の削減については、今久保田市長が始めたことではなくて昔からしていること。</p>
森谷議員	<p>質問して</p>
西田議長	<p>③ふるさと寄附の活用だが、これからどうなるかわからないから計上できないと財務部長は言っていた。それが甘々で4億円と計上している。おかしいだろう。いつまであるかわからないのに。表の中のH33が1.0億円になっているが、他は4億円だ2億円なのにどうしてか。</p>
埴財務部長	<p>これは、前から出ている17億円の内訳として1.0億円としているものだ。</p>
森谷議員	<p>わかった。下水道事業が全体で200億円、市の負担が20%として40億円だ。40年間で平均すれば1億円だ。下水道事業についてみれば、何年間か浮いたことになるが、人口動態もわからないのに事業をやること自体そもそもどうかと思う。県営住宅を作るが間に合わないから浄化槽を作ると言っている。だったらコミュニティープラントでも作れば浜田川も近いから長い管路を敷設しなくても済む。なのに歴史館は作る、下水道は止めるということになるのか。高度衛生管理型荷捌所、13の特三漁港で</p>

近重副市長 森谷議員	<p>市が事業をやっているのは浜田市以外ではもう1つくらいだ。境港は観光で好調なのにずっと拒絶し続け、結局県が整備することになった。ここで20億円ぱっと増えたと言う。おかしいだろう。なぜ調整しないのか。それから浜田城周辺整備事業、15億円で毎年5千万円ランニングコストがかかる。下水道の半分の額だ。再配置も金額がポイントなのに、面積にすり替えようとしている。ここら辺の考え方がなぜこう決まるのか。</p> <p>すべて政策判断で決定しているのでそれ以上何もない。</p>
近重副市長	<p>西村議員のときも政策判断だといって、中身がぜんぜん説明されていない。なぜこれよりこちらがウエイトが置かれなければならないか、そういうことに対して逃げないできっちり答弁してほしい。優先順位の理由を。</p> <p>これまで一般質問ですべてやってこられたことで、答弁している。産業振興をしっかりと取り組むということでそれ以上のことはない。</p>
森谷議員 西田議長	<p>議長。いい加減な答弁をする副市長を注意してほしい。</p> <p>注意しておく。執行部も今後きちんと具体的に答弁するように。それから議員ももう少し穏やかに質問して欲しい。</p>
牛尾昭議員 石本教育長	<p>他に。牛尾昭議員。</p> <p>中財の中から統合幼稚園の姿が消えているようだが。</p> <p>確かに昨年の中財では、30年度から33年度に実施と記載していた。12月議会の一般質問でも答弁しているように、現在予定地、候補地について条件整備等に時間を要している。そうした理由からこの期間中の実施は困難との判断から、今回先送りした。</p>
牛尾昭議員	<p>そうすると、充てていた6億7千万円は落ちると。例えば瀬戸ヶ島だとか神楽歴史資料館等金額がまだまだ動くと思う。そうした動きそうなものについて、改訂版のようなものを年度替り草々に示していただきたい。もう少し精査した精度の高い計画で議論しないと、高度衛生管理型が20億円降って沸いたわけではない。中身のある議論をしたいと思っている。そんな資料が示せるか伺いたい。</p>
久保田市長	<p>今日示している計画は現時点での情報を盛り込んだもの。あくまで中期財政計画は毎年、その時点での情報を盛り込んで作成するもので未来永劫のものではない。只今の議員のご指摘、高度衛生管理型荷捌所については正に設計の最中でおそらく年明け早々に金額が出てくるだろう。そうしたことも含め、今日ご指摘いただいた他の事業等の見直しも必要だと思うが、どのタイミングで出すかについては協議させていただきたい。</p>
西田議長	他に何かあるか。
西田議長	<p>( 「なし」という声あり )</p> <p>無いようなので、この2件については終了する。</p>

### (3) その他

西田議長	その他について、執行部から無いか。
河野上下水道部長	お手元に資料を配布しているが、給水車購入事業について、本日午後2時から4時まで東分庁舎前駐車場にて展示しているのでご覧いただきたい。
西田議長	給水車の報告があった。それではここで執行部はご退席いただいて構わない。

## 《 執行部退室 》

### 2. その他

西田議長

その他、皆さんから何もないか。

( 「なし」という声あり )

西田議長

無ければ、副議長から。

平石副議長

皆さんご承知と思うが、知音都市交流している糸魚川市で大火災があった。ついては、浜田市議会として支援させていただきたいと考えているが、ご意見があれば伺いたい。

西田議長

牛尾昭議員。

牛尾昭議員

過去の例に倣って、議会として募金活動をしなが議員もそこへ募金しながら全体として金額を膨らませて支援金として届ければ、議員活動として外に見えやすいと思うが。

西田議長

岡本議員。

岡本議員

議員1人1万円ずつご協力願って行うのが、とりあえずの動きとしてはいいのではないか。

平石副議長

ご意見いただいたので、また相談させていただき皆さんにお知らせしたい。

西田議長

全体を通じて何かあるか。

( 「なし」という声あり )

西田議長

それでは以上で全員協議会を終了する。

[ 15 時 15 分 閉議 ]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

浜田市議会議長 西 田 清 久